

兵庫県におけるヒメヒカゲについて

木村三郎

1. はじめに

ヒメヒカゲ (*Coenonympha Oedippus*) は日本では本州の特産で、群馬県、長野県から山口県まで分布が知られている。

とくに播磨地方は古くからヒメヒカゲの産地として知られ報告されている。

1975年に五十嵐英二氏¹⁾が西宮市仁川五ヶ池附近のヒメヒカゲの裏面眼状紋について「昆虫と自然」に発表され、また岡山県においても1980年に長谷川寿一氏²⁾が「ゆらぎあ No.3」に同様の資料を発表された。

この二点の資料から感ずることがあり今回播磨地方を中心として加西市と相生市の調査を思いついた。

最近の採集品及び観察個体(マーキングのみ)と相生市の個体については花岡正、広畑政己、八木弘の諸氏に資料の協力をいただいた。厚くお礼申し上げる。

2. 分布と生息地概況

兵庫県におけるヒメヒカゲは、播磨地方では姫路市、明石市、相生市、加古川市、赤穂市、西脇市、小野市、加西市、志方町、上郡町、佐用町などに、他では、峯山高原、砥峯高原、段が峯、千ヶ峯、篠ヶ峯、粟鹿峯、東山高原などの草原湿地や、西宮市、武田尾の東谷、神戸市などの六甲山地に知られている。しかし、最近の土地開発にわざわざいささ姿を消していく産地も多い。

発生地は山地(500m~800m)においては明るい草原湿地に産し、同じ時期、ウスイロヒョウモンモドキも生息している。地表面には水ゴケ、コモウセンゴケ、トキ草など目につき、ハッチョトンボも生息している。

平地(50m~100m)においては池の周辺の湿地や低山地の川ぞいの湿地に産し、雨の少ない時期には乾燥した草原になることが多い。今回の加西市の現地も池の周辺で比較的乾燥した広大な草原で最盛期には何百頭かが群れ飛んでいる。

3. 発生時期と生態、食草

年1回の発生で、姫路市や加西市、相生市等の低い産地では5月下旬から6月下旬までで6月中旬前後が

最盛期である。東山高原、峯山高原等の山地では7月初旬から8月上旬で、7月中旬が最盛期で約1カ月のずれがある。

成虫は明るい草原を好み陽光のもとに発生地の上を低くゆるやかに飛び、陽がかげると活動が著しく低下する。静止のとき翅を閉じじっと止まっている。驚かしても高く舞い上ることもなくすぐ近くに静止する。交尾飛翔形式は4回観察しすべて♀+♂であった。

個体の大きさは開張36mm~42mmで、♂♀とも同様の個体変異がある。

産卵は食草の自生する草地をゆるやかに飛び、直接に食草及び付近の他物に一卵ずつ産付して飛びたつ。

食草はカヤツリグサ科で飼育の際ススキ、メヒジワでも全幼虫期を飼育することが出来た。

産卵直後の色は乳白色で時間の経過とともに緑色、淡黄色、淡褐色へと変化する。

若令幼虫は緑色で越冬前飼育では3令から4令で褐色となり翌春再び緑色となる終令幼虫は25mm程に達し蛹は緑色で細長く体長15mm程になる。

飼育例であるが、卵期約10日、幼虫期約11カ月、蛹期14日であった。

4. 成虫の斑紋変異について

資料1、2、3、4と写真により図1の通り眼状紋を有する特徴が比較出来た。

すなわち資料1(西宮市)によると♂の前翅の眼状紋が0紋の個体は38%、1紋26%、2紋34%、4紋2%となる。♀では前翅2紋の個体は6%、3紋88%、4紋6%となる。

同様に資料2、3、4により図1で分る通り♂♀共に兵庫県西宮市、加西市、相生市、岡山県中和村別所へと個体の変化が幅広く現われるなかで連続的な変異をもっていることがわかる。

すなわち、眼状紋の変化から見れば東から西へ移動するにあたりより多くの眼状紋を有する特徴があることがわかる。

裏面の色は一部例外もあるが、加西市においては♂♀共に明るい色調で、峯山高原、姫路市、相生市などに産する個体では♂は色が濃い。

また♂♀共裏面に装う白帯も写真のようにはなはだ微弱なものから、巾2mmに達する顕著なものまである。

5. おわりに

本種は弱い飛翔力しかないので生息地の破壊は本種の絶滅を意味する。筆者が訪れた現地も何カ所かは環境がすっかり変り壊滅していた。今回の資料の中心となった加西市だけでも今後とも広大な草原のままでヒメヒカゲの楽園であってほしい。

資料1. 兵庫県西宮市仁川五ヶ池(五十嵐英二, 1975)

→ 前翅の眼状紋						
個	0	1	2	3	4	5
2	♂ 4	♂ 2	♀ 1	♀ 1		
3	♂ 4	♂ 3	♂ 3	♀ 1		
4	♂ 11	♂ 8	♂ 14	♀ 12	♀ 1	
5				♂ 1		

↓ 後翅の眼状紋

資料2. 兵庫県加西市(木村三郎)

→ 前翅の眼状紋						
個	0	1	2	3	4	5
2	♂ 1		♂ 1			
3	♂ 5		♂ 2	♀ 1		
4	♂ 17	♂ 67	♂ 101	♂ 3 ♀ 28	♀ 9	♀ 2
5	♂ 1	♂ 5	♂ 6	♂ 1 ♀ 1	♀ 1	

↓ 後翅の眼状紋

資料3. 兵庫県相生市(花岡正、八木弘、広畑政己、木村三郎)

→ 前翅の眼状紋						
個	0	1	2	3	4	5
2						
3			♀ 2			
4	♂ 1	♂ 13	♂ 23 ♀ 4	♂ 3 ♀ 19	♀ 8	♀ 1
5			♂ 1		♀ 2	

↓ 後翅の眼状紋

資料4. 岡山県中和村別所(長谷川寿一, 1980)

→ 前翅の眼状紋						
個	0	1	2	3	4	5
2						
3						
4			♂ 2	♂ 2 ♀ 1	♀ 3	
5			♂ 1		♀ 4	

↓ 後翅の眼状紋

図1. ヒメヒカゲ眼状紋の個体比較(後翅前縁部紋を除く)

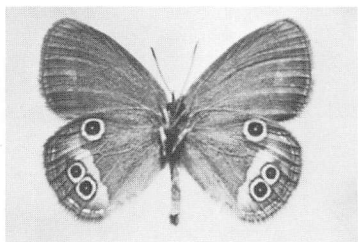
主要別 区分	産 地	雌雄	紋数	0	1	2	3	4	5
前 翅	兵庫県 西宮市	♂	38%	26%	34%	2%			
		♀			6%	88%	6%		
	兵庫県 加西市	♂	12%	34%	52%	2%			
		♀				71%	24%	5%	
	兵庫県 相生市	♂	2%	32%	59%	7%			
		♀			17%	53%	28%	2%	
裏 面	岡山県 別 所	♂			60%	40%			
		♀				12.5%	87.5%		
後 翅	兵庫県 西宮市	♂			12%	20%	68%		
		♀			12%	6%	82%		
	兵庫県 加西市	♂			1%	3%	90%	6%	
		♀				2%	93%	5%	
	兵庫県 相生市	♂					98%	2%	
		♀					94%	6%	
裏 面	岡山県 別 所	♂					80%	20%	
		♀					50%	50%	

参考文献

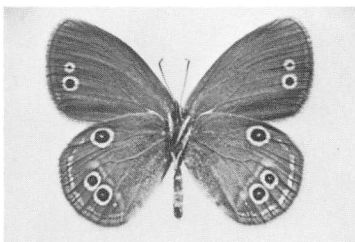
- 1) 五十嵐英二(1975) 昆虫と自然 Vol. 1, 10 No.10
5頁 ニューサイエンス社
- 2) 長谷川寿一(1980) ゆらぎあ No.3, 13~17
鳥取昆虫同好会(倉吉支部)
- 3) 藤岡知夫(1975) 日本産蝶類大図鑑 講談社・東京
(S.03: Saburou Kimura 飾磨郡夢前町)

加西市のヒメヒカゲ 左側♂ 中央♂ 右側♀ ① (10-VI-1982) 木村三郎

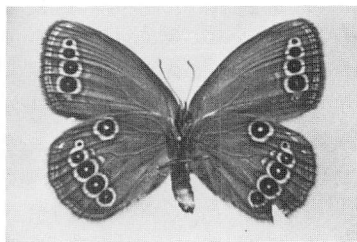
② (19-VI-1981) 木村三郎



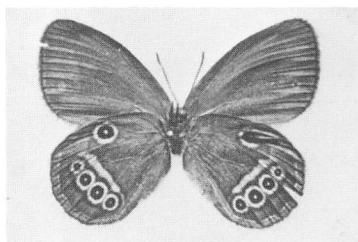
①



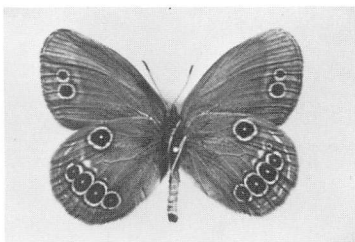
①



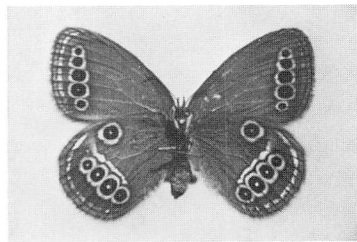
①



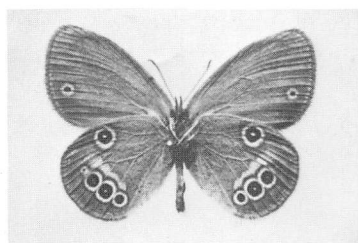
①



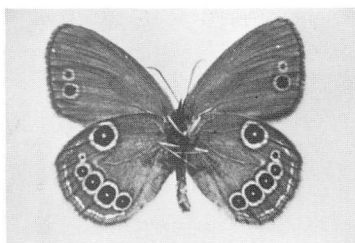
①



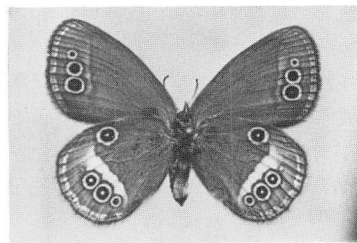
①



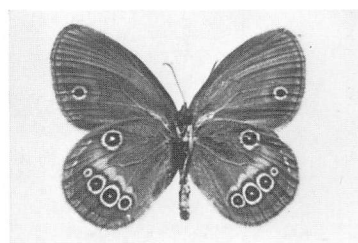
①



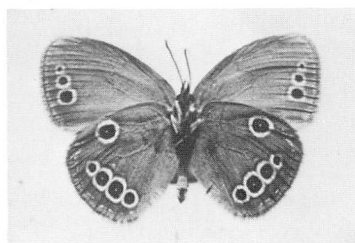
①



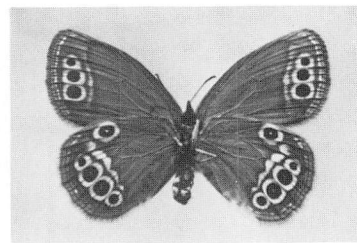
①



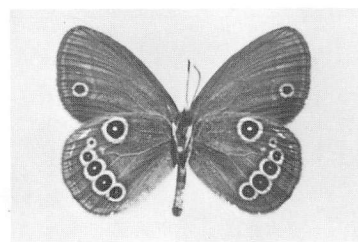
②



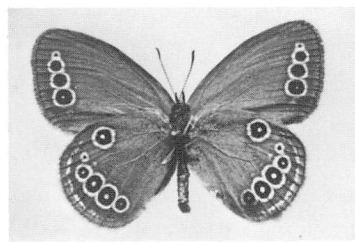
②



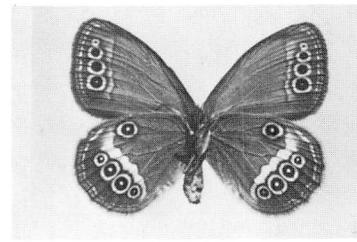
②



②



②



②